

○三宅栄子\* 内藤道子\*\* 藤井千賀\*\*\*

(\*相模女大,\*\*東京文化短大,\*\*\*梅花女大)

目的：長期にわたって記録されたT家の家計簿を分析し、身体障害者をかかえた家庭の家計管理者の長期視点に立った生活価値観による資産形成の実現と、それを可能にした外的要因への対応を実証する。

方法：第1報と同一家計の家計簿を用い、不明な点を補足するために聞き取り調査を行った。多額の資産運用を行うようになった54年からは家計簿を日常生活費計算と資産管理計算とに分離させているので、両者の関係を検討し、資産内容、資産形成の過程、資産保有の家計変動要因への影響、等につき当時の社会経済の状況をふまえて検討する。

結果：所有する資産は、預貯金、有価証券、生命保険、不動産がある。家庭創設期の家計規模の小さい時代には、預貯金を中心に資産形成をしているが、聞き取り調査の結果、家計簿の存在しない昭和25年の借金後、妻の父の影響で有価証券購入を始め、勤労収入の増加による家計規模の拡大が進むに従って有価証券売買を増加させ、借金返済している。また、多くの勤労者世帯が退職金で持ち家を購入した時代に若年期に住宅を購入し、家庭基盤の安定を図っている。社会経済の変動に敏感に反応しながら、有価証券を中心に金融商品を購入し資産増加を行い、障害者の次男が生涯経済的に困ることのないよう準備を行い、他の兄弟の家族に経済的に迷惑にならないよう資産形成を行っている。これが実現したのは家計管理者の生活価値観が資産形成の原点となっていることが明らかになった。